

アート・サイエンスコミュニケーションと 地域貢献に関する踏査および 実践研究

建築都市工学部
住居・インテリア学科
准教授
諫見 泰彦



研究シーズの紹介

本研究の一環である「積み木であかりのワークショップ～童話を題材とした読書感想光～」は、光源にLED、反射材・遮蔽材に積み木を使い、「あかりの良否は光源・反射材・遮蔽材のバランスによる」との知見を子どもたちが学ぶ、アートコミュニケーション活動です。あかりの行事、ひかりの現象を見ながら旅する紙飛行機の「こーき」が主人公の題材童話には絵がありません。それを子どもたちがLEDと積み木で読書感想光と

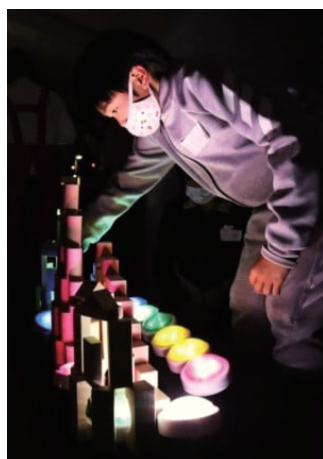
して表現し、絵本として完成させます。

研究成果は「光と影の美～積み木による子どもの遊び環境の創造～」と題して、同済大学（中国）主催 日本学研究国際シンポジウム他で講演し、本学人間科学部子ども教育学科、小田原短期大学保育学科延岡スクール、長門おもちゃ美術館等では教材として活用されています。

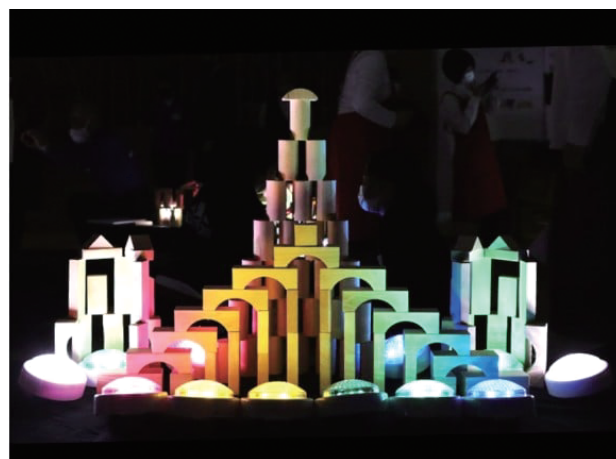


地域貢献実践

- アート・サイエンスコミュニケーションによる地域貢献が期待できます。
- ワークショップ実践によりあかりの良否を子どもたちが理解できます。



らが つは あめが たくさん ふったよ。
やっ と あめが やんで
はれた おそらを とんだら
とっても おおきくて
きれいな にじが かかってたよ。



アートコミュニケーション活動「積み木であかりのワークショップ～童話を題材とした読書感想光～」(長門おもちゃ美術館／2019～2021)。
サイエンスコミュニケーション活動「ナスカの地上絵の再現」、同「伊能忠敬のようなこと」は、前年度のシーズブックを参照。

期待される活用シーン

- 子ども教育専攻学生を対象に、アート・サイエンスコミュニケーション活動の指導者育成をしたい場合



指導者育成を実践します
(写真は、小田原短期大学における実践例です)。
こども環境学会で発表。



- 子どもたちを対象に、アート・サイエンスコミュニケーション活動としてワークショップを実践したい場合



ワークショップを実践します
(写真は、長門おもちゃ美術館における実践例です)。
日本建築学会で発表。



その他の研究テーマ

本研究実施の過程において、次の役務を委嘱され、地域貢献実践も推進しています。

- ・文化庁 文化芸術による子ども育成総合事業 派遣芸術家 <https://www.kodomogoeijutsu.go.jp/>
- ・日本建築学会 子ども教育支援建築会議 議員 <https://www.aij.or.jp/kaimukankei/x7xx-12/x651-12.html>
- ・日本建築家協会 コールデンキューブ賞運営委員会 委員 <http://jiagoldencubes.com/>